

子供たちに科学を伝える主任者



この人：近畿大学ライフサイエンス研究所 垣下典永氏

この人, こんな所

インタビュー担当：放射線安全取扱部会広報専門委員
宮本昌明（神戸大学研究基盤センターアイソトープ部門）

宮本：まず、近畿大学医学部 RI 共同研究室について紹介をしてください。

垣下：近畿大学医学部は、大阪府の南部にあり、周辺では数少ない、医学への人材育成と研究の拠点となっております。

RI 共同研究室は、医学部研究棟Ⅱの最上階、11階にあり、大阪平野を一望、神戸、淡路島まで見渡せる絶好のロケーションとなっております。研究者の疲れた心を和ませる良い風景となっております（写真1）。

研究室の概要は、11階の管理区域 298 m²、と管理室、屋上に排気設備、別棟に作業室、保管廃棄設備、排水貯留槽 15 t×2、減衰槽 15 t×6、希釈槽 50 t×1 などがあります。許可核種：21 核種で、許可証は、昭和 49 年 11 月となっております。

事業所名は、“近畿大学 医学部 共同研究施設 RI 共同研究室”です。

管理室スタッフは、前選任主任者の辰巳奇男と、技術員の山本由紀子、そして私の 3 名です。さらに、兼務の室長と施設長という体制です。

宮本：垣下さんが放射線管理に関わるようになったきっかけを教えてください。

垣下：昭和 57 年 4 月に近畿大学ライフサイエンス研究所に勤務し、同時に医学部 共同研究

施設 RI 共同研究室に配属されました。それまで、放射線に関する知識はなく、苦勞した覚えがあります（今でもですが……）。以来ずっと放射線管理に携わってきました。平成 19 年 4 月から選任主任者となりました。この間、近畿支部委員や年次大会実行委員、教育訓練問題検討分科会委員、消防署での放射線講師なども務めさせていただき、とても良い経験となりました。そして私自身も大変勉強になりました。そのほか、他大学や他施設とのネットワークにも参加しており、このような所での情報交換や意見交換が、放射線管理には大変参考となりました。また、そこで出会わせていただきました方々との人間関係も貴重な宝となっております。もし、皆さんに各種委員やネットワークへの参加の機会がございましたら、是非積極的に参加していただければ、大変有用なものになると思



写真1 医学部研究棟Ⅱ
（建物の最上階に RI 共同研究室がある）

います。

宮本：近畿大学医学部 RI 共同研究室ならではの取り組みがあれば教えてください。忙しい医師の研究の要望に応えるのに、どのようなことに留意しておられますか。

垣下：特に、新規の利用者には、いつでも RI 研究を始められるように、年間を通じて随時個別の教育訓練と健康診断体制をとっております。これにより、急きょ RI 実験が必要になった方や、途中で転勤して来られた方にも使いやすいよう、きめ細やかな対応を目指しております。継続の方にも、春の更新時期ではありますが、個別の再教育訓練を行っております。

宮本：本業以外での個人的な趣味や活動について教えてください。

垣下：様々なボランティア活動に生きがいを感じており、天文、科学、文化、芸術、音楽など、ジャンルも様々です。天文については、天文講座の開催や天体望遠鏡による観察会などを行っておりますが、1軒のお家での観察会から数百人規模のイベントまで対応しています。最近では、科学館や図書館からの協力依頼、小学校などからの授業協力、観察体験協力依頼が増えてきております。昨年は、金環日食などの天体イベントも多かったことから、各地での天文講座や天体観察会を行いました。特に最近の子どもたちは、ゲーム世代というのでしょうか、自然のものにはあまり目を向けられておらず、望遠鏡にも電子回路が入っていて、好きなものを投影しているように思っている子どももいるなど、苦勞もありますが、実際に望遠鏡で月のクレーターや土星の輪を観ると思わず皆「わっ！」と驚いています。感動することが少ない昨今、自然のもので素直に感動できること、「自然も宇宙も素晴らしい！」ということを少しでも伝えられたらと思います。都会では科学館やプラネタリウムなども多く、天文に触れる

機会は多いのですが、地方では、科学館やプラネタリウムがないところも多く、美しい星空があるにも関わらず、あまり星空を見たことがないという人も多いという矛盾や、身近に指導できる人がいないという問題もあり、そんなところに少しでも貢献できればと思っています。なにより、美しい星空を見上げると「わー」っと心も広がってゆくように思います。

私は時々落ち込んだり、悩んだりしているときに、夜空に望遠鏡を向けると、きらきらと輝く星々がたくさん見えて、「宇宙って、なんて広いんだろう。私は、こんなちっぽけな所で、何を悩んでいるんだろう」と元気が湧いてくることがあります。皆さん、悩んだときは、夜空を見上げてみてください。オススメです。

また、時々、いろいろな所へ望遠鏡を車に積んで持って行き、近くの人を集めて、小さな星を観る会を行ったりしています。年次大会の時などにも持って行くこともあります。よろしければ皆さんいかがですか？

私が、宇宙に興味を持ったのは、小学校の時、父から天体望遠鏡を買ってもらい、それで見えた木星とガリレオ衛星に感動したことがきっかけでした。誰かが言っていました「小さいころの感動は一生心に残る」、本当にそうだと思います。そんなきっかけを子どもたちに与えられれば、そんな思いだけで頑張っています（写真 2, 3）。

科学関連では、少しでも科学に興味を持ってもらおうと、若輩ながら科学マジックや科学工作、実験などを行っており、エネルギーのことをもっと知ってもらおうと「わくわくエネルギー実験室」を展開するなど、好評をいただいております。また、「科学をもっと身近に、お茶を飲みながらの軽い雰囲気ですら専門家のお話を聞く」という「サイエンス・カフェ」が全国で展開されておりますが、私の住む奈良県では非常

主任者 コーナー



写真2 小学校で行った1日先生（「月と星座のお話と科学工作、プラネタリウム & 超立体映像」）での元気な子供たち



写真3 望遠鏡による天体観測会の様子
（右上の土星の写真は垣下典永氏撮影）

に少なく、それではと、地元の喫茶店のご協力で、昨年、奈良県の南部にある大淀町に「サイエンス・カフェ」をオープンしました（神戸薬科大学の安岡由美先生にもご出演いただきました）。こちらでは、科学に限らず様々な分野のお話を取り上げてゆきたいと思っておりますが、放射線に関することなども話すことができると思っております。

主任者コーナーの編集は、放射線安全取扱部会広報専門委員会が担当しています。

【広報専門委員】

上養義朋（委員長）、池本祐志、小野孝二、川辺 睦、鈴木朗史、桧垣正吾、宮本昌明、吉田浩子

芸術・文化面では、はがきに絵と言葉でつづる「絵手紙」を、誰でも簡単に描けるように、絵手紙作家の方とともに開発した「誰でも簡単3つのコツ」を基に描いてもらう、「かんたん絵手紙教室」を、子どもから年配の方までを対象に行っています。特に老人福祉施設では、無表情だった方に笑顔が戻ったり、動こうとしなかった方が、自ら手を動かそうとするなど、職員さんも驚くような効果を上げています。そのほか、文化会館でのイベントをプロと同じように支えている裏方ボランティアや、子ども和太鼓教室、皆で楽しい音楽会、図書館ボランティアなど様々な分野に挑戦し、できることは何でもやってゆこうと仲間と共にボランティア活動を行っています。

子どもたちの笑顔や、大人の笑顔……それが何よりの報酬です。

現在、私が所属している団体は、9団体、うち代表・会長3団体、相談役1団体という状態で、1年のほとんどがボランティア活動というところです。

宮本：最後に近畿大学医学部周辺について紹介してください。

垣下：近畿大学医学部は、大阪府の南部、大阪狭山市の丘の上にあり、昔はこの辺りは「まむし」の多い所であったようです。現在は、住宅がたくさん建ち並ぶ所となり、甘いブドウの産地でもあります。併設されている附属病院は、この周辺の重要な基幹病院となっています。また、現在、救急災害センターを新設中です。ますます重要な拠点となっております。この病院で働く医師や医療関係者、研究をはじめ、少しでも社会に貢献できればうれしいです。